

令和3年度予算額 15,523 千円（+2,379 千円）【⑩13,194 千円（+2,022 千円）⑨2,329 千円（+357 千円）】（前年度予算額 13,144 千円 対前年増減率+18%）

概 要

- ひとり親家庭及び、生活困窮世帯等の子どもに対して、学習習慣の定着と基礎学力の向上を目的とした学習支援。
- 指導者1人 対 生徒3人の個別指導とデジタル教材を使用した集合型学習支援、並びに不登校・ひきこもりなど困難な状況にある子どもに対しての指導者1対生徒1での派遣型学習支援を行う。その他に、進路指導、進学に必要な情報の提供、日常生活習慣の形成、社会性を育成する居場所の提供、受講者の学習や生活上の悩みへの相談対応を実施する。

【対象者】 次の世帯の市内在住小学校6年生から高校生相当年齢まで

- ・生活保護世帯
- ・就学援助を受給する世帯
- ・児童扶養手当を受給する世帯
- ・その他市長が認める者

【人数】 集合型：50人（1会場最大20人） 派遣型：5人

【実施場所】 集合型：東 部：水曜／西 部：火曜／北 部：金曜
中央部：月曜 ※デジタル教材を全会場で使用
派遣型：受講者の自宅及び公共施設

【実施期間、指導形式・回数】

実施期間：6月中旬～3月下旬

指導形式：集合型：1：3（学習支援員対児童）週1回 全36回

※デジタル教材会場は、1：10（デジタル学習支援員 対 児童）

指導時間をデジタル教材、個別指導で分けて実施

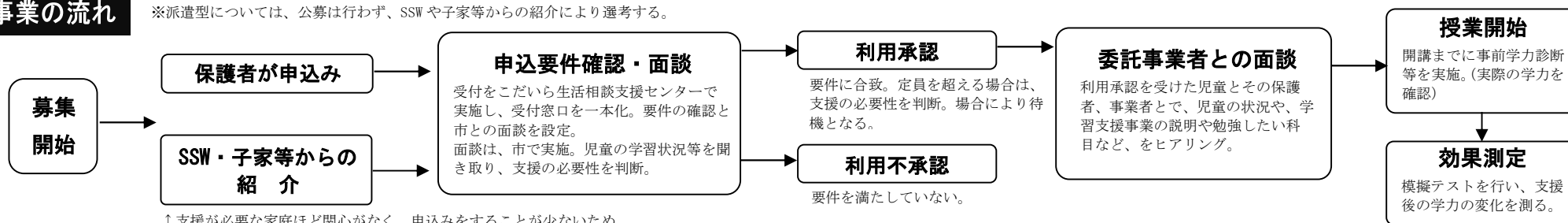
派遣型：1：1 月2回 全20回

【指導時間】 1回2時間程度（途中休憩含む）

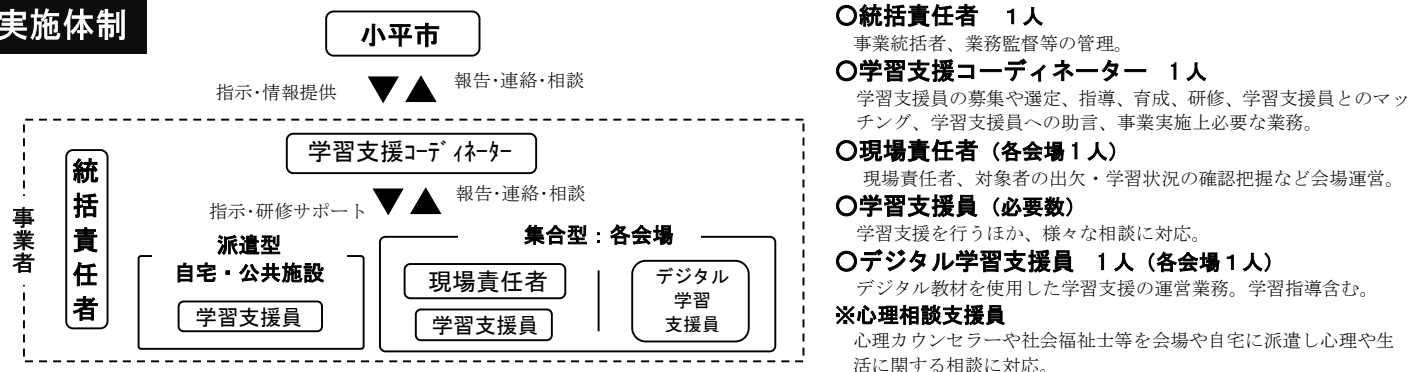
各会場とも午後6時30分から午後8時30分まで

事業の流れ

※派遣型については、公募は行わず、SSWや子家等からの紹介により選考する。



実施体制



関係機関等との連携

1 市との連携

月1回程度、市と事業者で連絡会議を実施。
業務の進捗状況、支援状況の報告を行う。

2 関係機関等との連携

市の関係部署や学校関係者及び関係機関との会議に必要な応じ出席し、支援状況の報告や情報共有を行い、連携して支援を行う。

令和3年度変更点

1 デジタル教材を活用した学習支援の全会場への導入（会場4か所で実施）

集合型

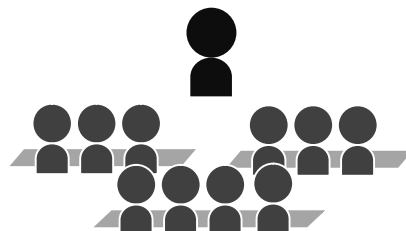
通常の教室

学習支援員1:生徒3

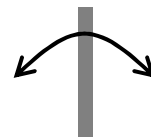


デジタル教材使用会場（1会場最大20名）

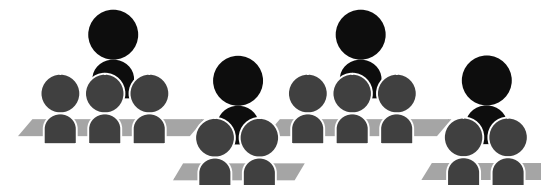
デジタル学習支援員1:生徒10



1時間に入れ替え



学習支援員1:生徒3



例）生徒20人を10人ずつに分け、前半は、デジタル学習（個別指導）、後半は、個別指導（デジタル学習）の形で実施する。

2 デジタル教材について

デジタル教材は、支援対象者が苦手とする内容を自動的に分析し、該当の単元を復習できるほか、難易度を自動的にコントロールしながら学習することが可能な教材とする。高校の内容にも対応し、大学センター試験対応ができる教材とする。

デジタル学習支援員は、デジタル教材の使用の指導、デジタル教材でわからない部分についての学習の支援、学習状況等の把握を行うなど、デジタル教材の運営に係る業務を行う。

3 集合型 北部会場の変更

開催会場を変更